

上伊那子ども科学工作教室が開催されました

令和6年(2024年)2月10日、上伊那子ども科学教室実行委員会が主催した教室に駒ヶ根工業高校2、3年生が23名参加して、80名の小学生にもものづくりの楽しさを伝えました。また、協力企業の方と懇談会を行い、キャリア形成の一助とさせて頂きました。

報 孝 (第三種郵便物認可) 河) 日刊 上伊那

仕事上のポイント 社会人アドバイス



駒ヶ根工業高校(駒ヶ根市)の生徒と県内企業13社の社員との交流会が10日、同市文化会館であった。現役の生徒が、企業で働く社会人に仕事に対する知識やコツを聞く内容。就職や就職後の環境について不安を抱える生徒の問いに、先輩たちが自らの経験を交えて仕事上のポイントをアドバイスした。(佐々木孝彦)

駒工生と県内13企業の社員交流会

交流会は、県産業振興機構伊那センターが事務局を担う第23回「上伊那子ども科学工作教室」の前段で開催。ものづくりの楽しさを小学生に伝えるための指導役として招かれた生徒23人と、同教室を協賛する精密など各社の社員が親睦を深め、情報を交換しようとした。

就職後の不安抱える生徒に

就職先が内定している望月優成さん(17)は「同校情報技術科3年は一就職後、仕事について行けるのが不安」と質問。これに対し、企業側は研修期間の存在や内容を紹介し「先輩が優しく教えてくれるので、心配は少ない」と答えた。

米山陸人さん(17)は「同2年は一在学中に取った方がいい資格は何か」と質問。企業側は在学中なら自分のやりたい分野で必要な資格を目指すという働き始めると必要な資格が見える。大半の企業に資格取得支援制度もある」と回答した。また、多くの企業が海外に進出している背景もあり、「資格も大切だが、語学を身に付けると強い武器になる」と助言した。

発行所 長野日報社
〒392-8611 諏訪市高島3 ☎0266-52-2000代
©長野日報社2024



小学生にもものづくりの楽しさを伝える駒工生